

教員養成課程における野外教育の試み：札幌市林間学校実習の実践報告

著者	粥川 道子，徳田 真彦，安原 政志，佐藤 悦子
雑誌名	北翔大学生涯スポーツ学部研究紀要
巻	8
ページ	117-126
発行年	2017
URL	http://id.nii.ac.jp/1136/00002576/

教員養成課程における野外教育の試み ～札幌市林間学校実習の実践報告～

A Pilot Study of Outdoor Education as a required subject for Teacher Training Course
Implementation Report on Practical Training by the Sapporo Camping School

粥 川 道 子¹⁾

Michiko KAYUKAWA

安 原 政 志³⁾

Masashi YASUHARA

徳 田 真 彦²⁾

Masahiko TOKUDA

佐 藤 悦 子⁴⁾

Etuko SATOU

1. はじめに

平成14年の教育職員養成審議会第一次答申「新たな時代に向けた教員養成の改善方策について」では、「教員を志願する者の豊かな人間性を培う観点から大学在学中の福祉体験，ボランティア体験，自然体験等を奨励するため，教職課程に選択科目を開設することなども含め，大学による適切な配慮が求められる」としている。¹⁾ 北翔大学では平成13年から健康プランニング学科に野外教育関連科目を正科に置き，自然体験活動指導者養成のカリキュラムを構築してきた。平成22年に健康プランニング学科を生涯スポーツ学部へ発展的改組する際には，「野外教育実習」を中学校ならびに高等学校保健体育教諭1種免許の教員養成課程必修科目とした。「野外教育実習」は，3泊4日の教育キャンプを体験的に学び「①様々な活動や課題にグループで挑

戦することで，グループにおける自分の役割を発見する力や使命感，責任感を養うとともに，社会性やコミュニケーション能力の育成，自ら主体的・積極的に行動する態度や意識を育む。②野外活動を通じて自然の素晴らしさや大切さに対する気づきを促し環境保全意識の向上を図る。③野外活動に関する基礎的な知識や技術を習得させる」ことを目的としている。著者らは，実習生を対象にした調査研究で「教員養成課程における野外教育実習は，教職志望学生の自然体験活動の指導力を向上させる効果や教職志望学生に学校教員が自然体験活動指導の資質・能力を有する重要性を理解させる効果があること」ならびに「教職志望学生の自然体験活動の指導力向上にカウンセラーやスタッフの存在が大きな影響を及ぼしていること」を明らかにした。²⁾ 教職志望学生にとって，カウンセラーは身近な指導者のロールモデルであり影響力が大きいこと

1)，2) 北翔大学生涯スポーツ学部

3) 特定非営利活動法人自然教育促進会

4) 大雪山倶楽部

は予想される。北翔大学「野外教育実習」のカウンセラーは「野外教育指導演習生」と「野外教育研究会」の上級生が担い、自然体験活動指導者の学びを深めている。他方、平成26年の中央教育審議初中分科会教員養成部会「学び教続ける教員像の理念を実現する新たな養成・研修システムの構築」では、「大学と教育行政の連携・協働を実現する意識が求められる」としている。³⁾ 筆者らは、これらの状況を鑑み、札幌市立の小・中学校現職教員が市内の児童・生徒を対象に実施している林間学校に着目した。本論は、教職志望学生が札幌市の林間学校中学生コースに実習生として臨んだ実践報告である。

2. 林間学校について

(1) わが国の林間学校の歴史と現況

林間学校は、小学校や中学校などが林間や高原に宿泊し、野外炊事やキャンプ・ファイヤー、登山、自然観察などを行なう学校教育の特別活動である。わが国初の林間学校は諸説あり定かではないが、その一説である大正7年に成城中・高等学校で開設された林間学校は、現在も同校で発展しながら継続実施されている。他方、大正中期から昭和初期にかけて全国で開設されていた林間学校の多くは、第2次世界大戦後の昭和20年以降、YMCA・YWCA・ボーイスカウト・ガールスカウトなどが主催するいわゆる「教育キャンプ」に移行し、社会教育分野で担うことが多くなった。平成28年夏に実施された学校行事としての林間学校の動向を探ると、その多くは私立学校での開設が多く、公立学校の場合は、特定の学校同士の交流事業や一部の希

望者を対象にしたものに留まっている。

(2) 札幌市の林間学校の歴史と現況

札幌市の林間学校の原点は、大正15年夏に「林間集落」として試行されたものが始まりと言われ、当時は野外での学習が活発化していた。その後、札幌市教育会（現在の一般財団法人札幌市教育協会）が、昭和5年に市内の小学生対象に円山公園を会場とした「林間学校」事業を開始した。当時の運営は、毎年各校持ち回りの当番制で当番校の教員が中心となって10日間のプログラム指導を行なった。内容はラジオ体操、朝の歌、野外写生、自然観察、夏休みの学習指導、時には運動会などが行なわれた。この林間学校は昭和19年まで実施された。現在、実施されている札幌市林間学校は、昭和52年に当時教育長であった河崎和夫氏が、自身の小学生時代の林間学校を振り返り、同様の体験を都市化が進み自然体験が薄れてきた札幌市内（以後市内）の子どもたちに与えたいとの考えから始まった。河崎氏は、日帰り1日数時間程度の読書指導や軽遠足などの具体的なプログラムを示し、新たな形の林間学校事業を社会教育課（現在の生涯学習推進課）へ提案した。当時は野外活動の拡大期であり、教育委員会社会教育課は、野外活動係を置き、既に冬のスキーや夏のキャンプ事業を行っていた。教育長の提案を受けて野外活動係は、札幌市教育会や札幌市小学校校長会を通して積極的に歩くスキーや水泳等の野外活動を指導していた現職教員と連携し、第1回の林間学校を開催した。第1回林間学校の主旨は、「都市部の学童に対し、夏季休暇を利用して自然に親しむ機会を与え、集団生活の喜びと規律ある諸活動を

体験させる」とし、市内の小学校3年生から6年生を対象に公募して、札幌郊外の自然豊かな盤溪小学校を会場に3日間の日帰りで実施された。プログラム内容は、黎明期を築いた教員たちの「様々な自然条件に真正面に向き合い、自然を理解し、自然を友達とし、共に生きることを学ばせたい」との思いが詰まった盤溪の歴史、写生会、アスレチック施設を使った体力づくり、強行登山、川遊びとかなりハードな内容であった。⁴⁾ 第1回林間学校の参加者は、想定定員75名に対し210名であった。翌年は更なる参加希望者を受け入れるため会場に駒岡小学校1校を増やし、夏季2会場4展開、冬季2会場7展開となった。冬期の参加者は1,114名と急成長した。昭和52年から2年間、社会教育課野外活動係として本事業を担当した霜觸寛氏は、「林間学校は、学校教育との協同による事業であり、実際の現場では社会教育の指導と学校教育の指導の違いに関して議論となったが、社会教育担当者として教員の子どもの力を引き出す技量、能力に学ぶところが多くあった」と述べている。⁵⁾ 昭和53年からは、札幌市教育委員会と教育協会の共催、札幌市小学校校長会、学校教諭で組織される札幌市野外活動教育研究会の後援となり、現行の札幌市教育委員会、一般財団法人札幌市教育協会、札幌市野外活動教育研究会の三者主催の基を礎いた。現在の札幌市林間学校の目的は、「1. 豊かな自然との触れ合いを通して心身の健全な成長を図る。2. 子どもたちが自ら実行し自己の力を試すことを通して自発性を育てる。3. 年齢の異なる仲間との集団生活を通して社会性を養う」の三点を挙げ、実施時期は、小・中学校の夏休みと冬休み期間中の1泊2日から

3泊4日まで対象年齢や対象者のニーズにあわせた様々なプログラム内容をもつコースがある。「夏季林間学」は、野外炊飯・川上り・登山・テント泊・クラフト制作・キャンプファイヤーなどを、「冬季林間学校（小学校のみ）」は、かまくら作り・スノーシューハイキングなどを実施している。会場は、自然に恵まれた市内の小学校（特認校を含む）や市の野外教育施設である。指導は、札幌市野外活動教育研究会に所属する小・中学校の現職教員が行なう。また、参加者のけがや急病などの対応のため、養護教諭が配置されている。5・6年生を対象とした夏季の「森はともだち」と冬季の「冬はともだち」は障がいのある児童と健常児と一緒に活動するコースで平成18年から実施している。⁶⁾ 中学生を対象とする夏季の「林間学校中学生コース」は平成25年からの実施である。ここ数年の参加者は、夏季約900名冬季約700名であり、参加申込みが定員を超えた場合は抽選が行なわれている。

3. 札幌市林間学校の主催三団体について

（1）札幌市教育委員会生涯学習推進課

野外教育担当

札幌市教育委員会は、生涯学習推進課に野外教育担当を設け、年間を通して野外教育に関する事業を実施している。平成28年度の野外活動関連事業は、市内の小・中学生を対象とした「林間学校」と次年度同じ小学校に通う予定の幼児と児童が自然体験活動を通して学びあう「なかよしキャンプ」であった。林間学校では、基本計画の策定をはじめ、指導計画策定助言、指導者の委嘱や謝金、広報活

動、関係機関との渉外・調整、教材物品調達など12項目について運営している。平成28年度は新規に「安全の手引き」を野外活動教育研究会とともに作成した。林間学校の会場にもなる市内野外教育関連施設の「青少年山の家」と「定山溪自然の村」を、さっぽろ青少年女性活動協会に事業委託している。

(2) 一般財団法人札幌市教育協会

一般財団法人札幌市教育協会は、札幌市の教育振興活動を進め、児童生徒の健全育成を進める団体への助成や教育世論の啓発のための講演やシンポジウムを開催している。林間学校では、基本計画の策定、応募者の受付、参加料の徴収と経理及び記録を担っている。

(3) 札幌市野外活動教育研究会

札幌市野外活動教育研究会は、昭和52年の第1回林間学校の準備や実際の運営・指導に携わった教員たちによって設立され、平成29年度に40周年を迎える。平成28年度の会員登録数は札幌市立の小・中学校教員165名である。林間学校では、基本計画の策定、指導計画の策定、参加児童の指導、事業記録を担い、平成28年度は新規に「安全の手引き」を札幌市教育委員会とともに作成した。なお、第1回林間学校から各会場が小学校の場合は、村長として会場校の校長、教頭職が担っている。また、全コースに養護関係には養護教員を、学級担任の他、総務・食事係などには、野外活動教育研究会所属の教員を配置している。野外活動は教科ではないため、野外活動教育研究会活動は、会員が支払う会費によって運営されている。ただし林間学校に関わる保険、交通費、食費は主催者が負担し、勤務態様は



写真1 平成28年度札幌市夏季林間学校案内(表)

会場・コース	日程・参加費	対象・募集人数	会場・コース	日程・参加費	対象・募集人数
① 青少年山の家 1・2年生コース (申込期間:4/15～5/1)	1泊2日 17,000円 ※1泊2日コースは、 17,000円(税込)です。	札幌市内の 小・2年生 約40名 ※1泊2日コースは、 全学年一学年に1名 までです。	⑤ 札幌市立 小学校 5・6年生コース (申込期間:5/2～5/15)	2泊3日 12,200円 ※1泊2日コースは、 12,200円(税込)です。	札幌市内の 小・5・6年生 約60名 ※1泊2日コースは、 全学年一学年に1名 までです。
② 青少年山の家 3・4年生コース (申込期間:4/15～5/1)	2泊3日 13,000円 ※1泊2日コースは、 13,000円(税込)です。	札幌市内の 小・3・4年生 約40名 ※1泊2日コースは、 全学年一学年に1名 までです。	⑥ 札幌市立 小学校 4・5・6年生 総合コース (申込期間:5/2～5/15)	3泊4日 9,000円 ※1泊2日コースは、 9,000円(税込)です。	札幌市内の 小・4・5・6年生 約60名 ※1泊2日コースは、 全学年一学年に1名 までです。
③ 青少年山の家 5・6年生コース (申込期間:4/15～5/1)	3泊4日 14,500円 ※1泊2日コースは、 14,500円(税込)です。	札幌市内の 小・5・6年生 約40名 ※1泊2日コースは、 全学年一学年に1名 までです。	⑦ 札幌市立 中学校 4・5・6年生 コース (申込期間:5/2～5/15)	3泊4日 14,500円 ※1泊2日コースは、 14,500円(税込)です。	札幌市内の 小・4・5・6年生 約60名 ※1泊2日コースは、 全学年一学年に1名 までです。
④ 札幌市立 小学校 3・4年生コース (申込期間:4/15～5/1)	2泊3日 12,200円 ※1泊2日コースは、 12,200円(税込)です。	札幌市内の 小・3・4年生 約40名 ※1泊2日コースは、 全学年一学年に1名 までです。	⑧ 札幌市立 中学校 4・5・6年生 コース (申込期間:5/2～5/15)	3泊4日 17,600円 ※1泊2日コースは、 17,600円(税込)です。	札幌市内の 小・4・5・6年生 約60名 ※1泊2日コースは、 全学年一学年に1名 までです。

写真2 平成28年度札幌市夏季林間学校案内(裏)

表3 平成28年度林間学校中学生コース日程

1 日 目	7/17(日)	2 日 目	7/27(水)	3 日 目	7/28(木)	4 日 目	7/29(金)
めあて	林間学校を知ろう (準備、先生、仲間)	めあて	学級づくりをしよう	めあて	友達と助け合って チャレンジしよう	めあて	林間学校の まとめをしよう
5:00		5:00		5:00		5:00	
5:30		5:30		5:30	起床	5:30	
6:00		6:00		6:00	朝の集い	6:00	
30	初日のみ、札幌 市教育委員会で行います。	30		30	朝食	30	起床・朝の集い
7:00		7:00		7:00	*荒天のため登山中止	7:00	朝食
30		30		30	滝野自然学園出発		
8:00		8:00	9:30 真駒内駅バ ス乗り場 集合	8:00	*市内小学校へ移動	8:00	学級活動
30		30		30	登山開始(紋別岳)	30	テント撤収 清掃など
9:00		9:00	9:45 バス出発	9:00		9:00	
30	受付開始	30		30		30	
10:00	全体会	10:00		10:00	*レクリエーション大会	10:00	
30	学級活動 ・自己紹介、 仲間づくり体験活動他	30	登校・入村式	30		30	退村式
11:00		11:00	オリエンテーション	11:00		11:00	
30	解散	30		30		30	下校
12:00		12:00	昼食(持参弁当)	12:00		12:00	
30		30	写真撮影	30	下山、出発	30	11:39 バス出発
13:00		13:00	係ミーティング	13:00	*温泉到着	13:00	12:03 真駒内駅 バス乗り場 到 着・解散
30		30		30	入浴	30	
14:00		14:00		14:00		14:00	
30		30	係活動 ・テント設営など ・野外炊飯など ・レク準備など	30	*温泉出発	30	
15:00		15:00		15:00		15:00	
30		30		30	係活動 ・テント設営など ・野外炊飯など ・キャンプファイア 準備など	30	
16:00		16:00		16:00		16:00	
30		30		30		30	
17:00		17:00		17:00		17:00	
30		30	夕食(キーマカレー)	30	夕食(煮込みジンギスカン)	30	
18:00		18:00	後片付け	18:00	後片付け	18:00	
30		30		30		30	
19:00		19:00	レクリエーション	19:00	キャンプファイア	19:00	
30		30		30		30	
20:00		20:00	学級活動・就寝準備	20:00		20:00	
30		30		30	グループミーティング	30	
21:00		21:00	就寝(テント泊)	21:00		21:00	
30		30		30	就寝(テント泊)	30	
22:00		22:00		22:00		22:00	
					*は荒天プログラム		

な試みとして参加した教職志望学生の補助指導活動に対する視察が行われた。

・報告書

学生は指導教員からの指示で実習終了後に報告書を提出した。以下は、各実習生の報告書項目ごとの抜粋である。

設問1 林間学校を通して感じた、生徒の変化はどのようなものであったか

- ・生徒はそれぞれ、林間学校での目標をもち、その目標を達成することができるように努

力し、楽しみながら真剣に取り組んでいました。(中略) 同じ作業を一緒にできたことがポイントとなっていたと思います。(中略) 生徒たちは、楽しみながらも、自らの目標の達成を目指し、達成をした生徒は新しい目標を再設定しながら、林間学校を有意義過ごす努力をしていました。(M.T)

- ・クラスとしての変化を見ると、全体的にまとまっていたと思われる。それぞれの意見を出し合い協力して活動に取り組むこと

で、徐々に表情も柔らかくなっていったように見えた。(中略)しかし、それはあくまで2泊3日の体験の中であって、細かい部分で見るとまだクラスに馴染めず積極的に関われずにいた生徒もいた。その様な生徒への対応が今後の課題に感じるが、全ての生徒が同じようにクラスに馴染みたいと考えているわけではないと思われるので、そういった視点での配慮も重要になると考える。(K.Y)

- ・生徒のやる気をうまくコントロールしながら生徒主体で行わせることがとても重要であると感じた。そうすることで「やってもらう側」から「やる側」へと意識が変化した。(中略)ふりかえりでは多くの話を話し自信に満ち溢れていたと感じた。(Y.S)

設問2 林間学校を通した感想

- ・林間学校では、前日の反省を生かすことができるように、プログラムが組み込まれていて、プログラムを企画する際にはその内容や順序の意図までも深く考える必要があったことを学びました。(M.T)
- ・とっさに皆が楽しむことのできるゲームを行うなど、先生方の引き出しの多さに感動し、同時に自分の知識不足を痛感した。雨天時の安全面に配慮した切り替えや、雨天プログラムへ生徒のモチベーションを持続させるなどの先生方の声掛けも貴重な学びとなった。(M.T)
- ・生徒の実態に合わせてプログラムが組まれており、時間配分も丁度よく、プログラムの内容もプログラム同士のつながりが考えて組まれていた。参加者の実態に合わせたプログラムデザインの大切さをあらためて感じた。(Y.S)

- ・自分の未熟さを実感した。生徒との関わり方、気づき、先読み、知識量など、すべてが段違いでした。先生方の応用力は自分と大きな差だと実感しました。(K.Y)

設問3 今後に生かしていきたい事

- ・先生方の状況に合わせたコミュニケーションの取り方やアイスブレイキングゲームの指導法などを含め、知識や技術を増やしたいと思った。衛生管理の徹底についてマニュアルに沿って生徒の安全確保に努めていた。今後の参考にしたい。(M.T)
- ・班の輪の中に入れない生徒がいた時のアプローチの仕方について、「先生方はどう輪の中に入れていくのだろう」という疑問が起きましたが、先生方から「その子が班の雰囲気の中には馴染めていない部分があったとしても、楽しめているかもしれない」という考え方を聞いて自分の考えの幅を広げることができた。グループ活動の時に参加者の観察・評価を適切にしていけるようにしたいと思う。(Y.S)
- ・教員として学校現場に立った時、学級経営では生徒の実態把握が重要になってくる。生徒によっては、なかなか心を開いてくれない状況もあり得る。そのような状況下で、生徒にどのように関われば良いかという視点、技術を林間学校の中で様々な特徴のある生徒と接したことや諸先生の生徒への関わり方を見て参考になった部分が多くあり、今後活かしたいと思う。(K.Y)

5. おわりに

札幌市林間学校の実習に参加した学生の実習記録簿、報告書ならびに聞き取り調査から、

「現職教員から生徒の状況に応じた的確な指示，心を閉ざしがちな生徒への接し方，生徒の行動を待つ姿勢，幅広い観察眼，体験学習法におけるふりかえりの指導技術，レクリエーション指導や野外生活技術，参加者の実態に合わせたプログラムの組み方，荒天時の対応力とリスクマネジメント能力など」を学んだことが分かった。本取り組みは，学生が教員に求められる能力として自身に足りない点を省みながら将来の目標とする教師像を考える良い機会となった。他方，著者らは，オブザーバーとして指導者全体会議や反省会を含む中学生コース全日程に参加し，現職教員の生徒の力を引き出す指導力や荒天時の迅速なプログラム対応力に触れた。また，年齢や役職の異なる教員導同士が集う会議では，教員間で毎回活発な議論が行なわれるのを確認した。平成24年度の中央教育審議会答申「学び続ける教員像」では，使命感や責任感，教育的愛情，高度な専門的知識，実践的指導力，豊かな人間性や社会性，コミュニケーション力が求められている。⁷⁾ これらの資質や能力は自然体験活動指導者に共通する。あらためて教員が自然体験活動指導の資質・能力を有する重要性を感じた。全林間学校コース終了後の反省会では，野外活動教育研究会から「北翔大学の学生受入れは，双方にとって価値のある取組である」と考える。野外教育を専門とする大学教員と専攻学生からの意見は，今後のプログラムを模索する上でも参考になった」と評価された。著者らは，これら野外活動教育研究会の評価と柔軟な対応について，林間学校は単独の学校運営ではないものの「チーム学校」機能を保有していると感じた。今回の林間学校指導補助参加は1件，教

職志望学生3名であるため，本論は各自の実習記録簿，報告書と林間学校終了後の聞き取り調査をまとめた札幌市林間学校実習の実践報告とした。今後は，高等教育機関の使命として野外活動教育研究会へのアンケート調査分析協力などさらなる連携強化を試み，学生の参加枠を増やすとともに自然体験活動指導体験が教育現場に及ぼす影響について検証していく。

引用・参考文献

- 1) 新たな時代に向けた教員養成の改善方策について：平成14年の教育職員養成審議会第一次答申、文部科学省，http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/old_chukyo/old_shokuin_index/toushin/1315369.htm：平成28年12月20日閲覧。
- 2) 青木康太郎、粥川道子：キャンプ体験が教職志望学生の自然体験活動の指導力に及ぼす影響，北翔大学北方圏生涯スポーツ研究センター年報，第3号Pp21-28，平成24年10月
- 3) 「学び続ける教員像」の理念を実現する新たな養成・研修システムの構築：平成26年の中央教育審議初中分科会教員養成部会発表資料，文部科学省，http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/-icsFiles/afildfile/1347091.htm：平成28年12月20日閲覧。
- 4) 札幌市野外活動教育研究会：どの子にも豊かな自然体験を－札幌市林間学校30周年記念フォーラム記録集，札幌市教育委員会生涯学習推進課，平成19年11月
- 5) 札幌市野外活動教育研究会：自然の中の

子供たち－札幌市林間学校実践記録集特別
号．札幌市教育委員会生涯学習推進課．平
成19年8月

6) 札幌市野外活動教育研究会：森の学校・
雪の学校－平成12年度札幌市林間実践記録
集．札幌市教育委員会社会教育担当課．平
成13年3月

7) 学び続ける教員像：平成24年度中央教
育審議会答申，文部科学省，[http://www.
mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/
siryo/attach/1325919.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryo/attach/1325919.htm)：平成28年12月25
日閲覧．